



☎ 文書館直通 0268-67-3312 東御市教育委員会文化財係直通 0268-75-2717
 ㊚ メールアドレス bunshokan@city.tomi.nagano.jp

平成から令和に元号が変わり1年が経ちましたが、切り替わりには慣れましたでしょうか。
 下の版画は江戸幕府から政権が変わり、明治時代に切り替わった時に明治天皇御巡幸（じゅんこう）
 が行われた時の様子です。今回は**明治天皇御巡幸**についてご紹介しましょう。



荻原家文書目録No.2284

◆巡幸とは

巡幸という言葉初めて目にした方も多いと思いますが、天皇が各地を旅行することを言います。

◆明治天皇の巡幸とはどんなものだったのでしょうか

明治時代とは1868年～1912年ですが、この間に明治天皇の日本各地の地方巡幸が100回近くあり日帰りも30件以上あると言われています。その中で**六大巡幸**と言われるものは明治初年から10年間に集中し期間も1か月半～2か月以上と長期の特徴があります。

江戸幕府にかわる天皇は歴史的、民族的に支配の正当性を持つ存在であることのアピールとお立ち寄りの先々で、その地の名産などを住民から説明を受けるなどの親近感を示されていた様です。

◆六大巡幸とはどこを巡っていたのでしょうか

- 1) 1872年（明治5年） 5月23日～7月12日：近畿・中国・四国・九州地方
- 2) 1876年（明治9年） 6月2日～7月21日：東北地方（函館も含む）
- 3) **1878年（明治11年） 8月30日～11月9日：北陸・東海地方**
- 4) 1880年（明治13年） 6月16日～7月23日：山梨県・東山道地方
- 5) 1881年（明治14年） 7月30日～10月11日：東北・北海道地方
- 6) 1885年（明治18年） 7月26日～8月12日：山陽道地方

☆ **3回目の【明治11年北陸巡幸】の際に、明治天皇は現東御市内を通過されています。**

◆北陸・東海道巡幸のルートとは

北陸東海道御巡幸60周年の記録として長野県より
 発行された『明治天皇御巡幸録』によると以下の通り。

※行在所(あんざいしょ):天皇の外出先での仮の御所で、宿泊所にあたります。

【御巡幸第一日目】(9月6日)

- 峠御小休所(現軽井沢町峠町熊野神社境内)
- 軽井沢行在所(現軽井沢町中軽井沢)
- 追分行在所(現軽井沢町西長倉 追分)

【御巡幸第二日目】(9月7日)

- 馬瀬口御小休所(現御代田町馬瀬口)
- 唐松御野立所(現小諸市唐松)
- 小諸行在所(現小諸市市町)

牧家御小休所〈ぼくやおこやすみじょ〉(現東御市滋野乙)

当時戸主 蓬田幸三郎

田中御小休所〈たなかおこやすみじょ〉(現東御市田中)

当時戸主 小田中重右衛門:旧田中宿本陣

岩下御小休所(現上田市神川 岩下)

☆立ち寄場所には昭和9年に長野県によって記念碑が建てられています。



牧家御小休所記念碑

東御市滋野雷電顕彰碑より西に100M

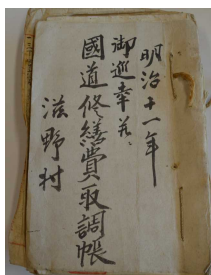


田中御小休所記念碑

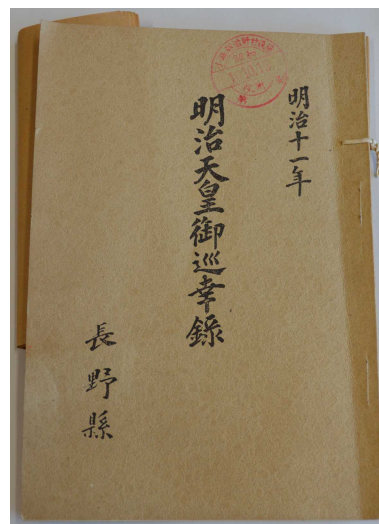
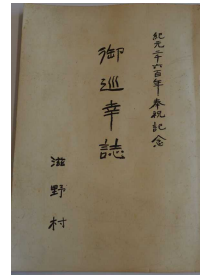
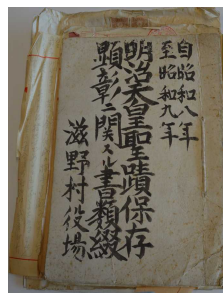
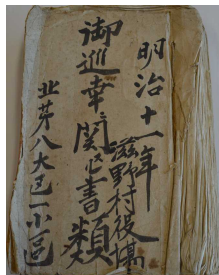


牧家の小休所で天皇に献水(御膳水)した片羽八幡水は今も
 なお豊かな水が湧いています。 東御市立滋野小学校裏に位置します。

◆旧滋野村役場資料(東御市文書館蔵 現在整理中)



- ・国道の修繕費
 - ・小休所の経費
 - ⇒ 小休所の為の供出品
- などが記録されています



東御市文書館にて整理作業中

※本書の本文では5日目が記載されているが、巻末表では9月10日が無いことになっている。

上田行在所(現上田市役所の地)

【御巡幸第三日目】(9月8日)

- 鼠宿御小休所(現坂城町ねずみ)
- 坂木御小休所(現坂城町 旧本陣)
- 下戸倉行在所(現千曲市戸倉)
- 屋代御小休所(現千曲市屋代)
- 原小休所(千曲市中津 原)
- 丹波嶋御小休所(長野市青木島)
- 長野行在所(現長野市善光寺別当大勧進)

【御巡幸第四日目】(9月9日)

終日長野市内御巡覧 長野行在所

【御巡幸第五日目】(9月10日)

田子御小休所(現長野市若槻 田子)
 鍛冶ヶ窪御野立所

(現長野市若槻と上水内郡神郷村の境界地見晴し)

- 牟禮行在所(飯綱町中郷 牟禮)
- 清水窪御野立所(飯綱町中郷)
- 柏原御小休所(上水内郡信濃町柏原)
- 野尻御小休所(上水内郡信濃町野尻)

⇒新潟⇒富山⇒石川⇒福井⇒滋賀
 ⇒岐阜⇒愛知⇒静岡⇒神奈川

⇒11月9日東京還幸